■特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

ここに示した事項は ⚠注意 を表示しています。

⚠注意：（この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。）

マークは「指示」　マークは「接触禁止」

⚠注 意(CAUTION)

★適合する機器の確認
適合する機器の型式の呼びが合っていることを確認してください。
予想もしない事故が発生するおそれがあります。
確認

★保護具の着用
機器の分解時は、保護具(手袋など)を着用してください。
誤ってけがをするおそれがあります。
指示

★高温部に注意
必ずストーブを消火し、ストーブの温度が充分に下がってからおこなってください。
やけどのおそれがあります。
接触禁止

★乾電池を取りはずす
必ずストーブの乾電池を取りはずしてからおこなってください。
やけどのおそれがあります。
指示

★廃棄するとき
交換したしんは乾燥させてからビニール袋に入れて廃棄してください。
廃棄処理の際、予想しない事故が発生するおそれがあります。
灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。
指示

お 願 い(NOTICE)

★しん取り付け後の確認
- しん上下操作をして、しんの上下が円滑にでき、しんの高さが規定寸法どおり均一にそろっていることを確かめてください。
- 対震自動消火装置を作動させて、しんが確実に下がることを確かめてください。
- 点火操作をして、正常に燃焼することを確かめてください。

★変質灯油や不純灯油に注意
変質した灯油、不純灯油、汚れた灯油、水のまじっている灯油などを使用しないでください。
異常燃焼や故障（点火しにくくなる、しんが下がらなくなる、火が消えなくなる、など）の原因となり、しんの寿命が短くなります。

★この耐熱しんの上端部は、特殊な材料の繊維を使用していますので、糸のほつれ程度を切るだけで先端を「はさみ」などで切らないでください。
★しんを交換したときは、給油後、約20分以上待って、しんに灯油が充分に吸い上げられてから点火してください。充分に吸い上げられていない状態で点火しますと、しんを傷めます。

TOYOTOMI トヨトミ 石油ストーブ 《純正部品》替しん **TTS-125**

T4963505999247

石油燃焼機器用しん 取扱説明書

トヨ耐熱しん 第125種

●しんの交換をする前に、必ずこの「取扱説明書」を読んで、正しくおこなってください。(しん交換のしかたがわからない場合は、販売店にご相談ください。)

適合する機器の型式表		参照
トヨストーブ	KSA-120A・120B KS-62B・67A・67B・67C・67D・67E・67F・67G・67H・6700・GE67 KTS-67E・67F・67G・67H	①

替しんの型式名	トヨ耐熱しん 第125種
種類	普通筒しん
呼び寸法	φ120×3.5
からやきの可否	からやき可

しん品番 ： 0565000680

商品コード	12012807
品名	ガラスシンクミタテ

JIS S 2038
石油燃焼機器用しん

株式会社 トヨトミ　製造 SILVER SIM

しん高さ確認ゲージ

しんの高さを計るときは破線の部分で切り取ってください。

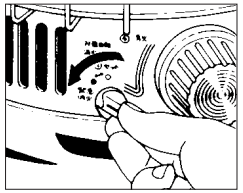
8mm
0mm

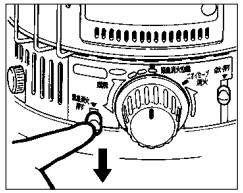
株式会社 トヨトミ
〒467-0855　名古屋市瑞穂区桃園町5番17号
お客様相談窓口
フリーコール **0120-104-154**
受付時間　平日(月曜～金曜)午前9時～午後5時
※土・日・祝日は除く
FAX　052-857-1220
ホームページ　https://www.toyotomi.jp/

0543000685

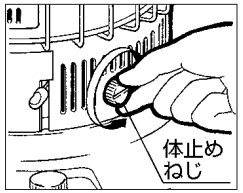
適合する機器の型式表 の 参照 ① の機種

1. **対震自動消火装置を作動させてください。**
乾電池を電池ケースから取りはずしてください。

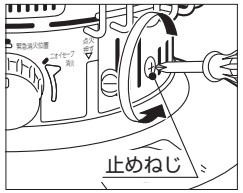

[KSA-120A]


[KSA-120B,KS-62B系,KS-67系]

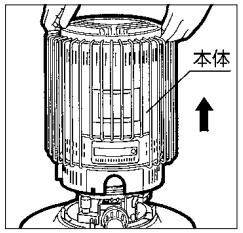
2. 本体と油タンクの接合部の体止めねじまたは、止めねじ３本を取りはずしてください。



〈体止めねじの場合〉

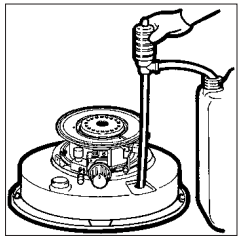


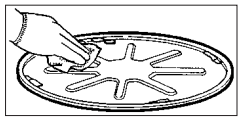
〈止めねじの場合〉

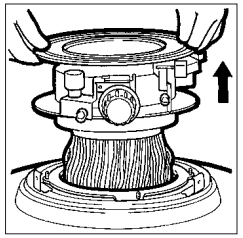


3. 本体をゆっくり持ち上げて取りはずしてください。

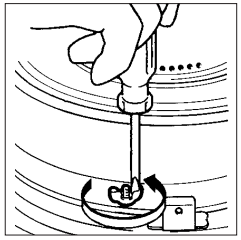
4. 給油口ふたを取りはずし、市販の給油ポンプの吸込側を油タンクに差し込んで、油タンク内の灯油を抜き取ってください。
残った灯油は、布切れなどで吸い取ってください。
置台のほこり、ごみを取りのぞいてください。
置台は、必ず元通りに取り付けてください。
置台を取り付けて使用しないと、火災など予想しない事故が発生するおそれがあります。



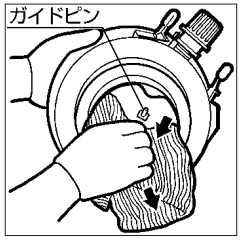




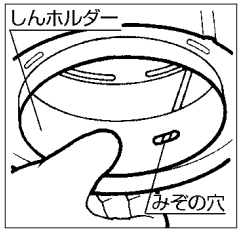
5. しん調節器の蝶ナット４本を取りはずし、しん調節器を上に持ち上げて取りはずしてください。



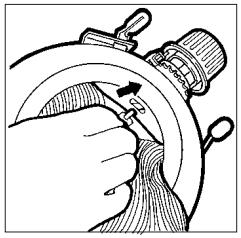
- 蝶ナットが回しにくい場合は、マイナスドライバーなどを使って蝶ナット（４箇所）を取りはずしてください。この時、無理に回すとねじ山をつぶすおそれがありますので、ご注意ください。



6. 古いしんを四つ折りにするようにしてガイドピン（３箇所）をしん調節器からはずし、しんを下へ引き抜いてください。
しんホルダーを変形させないように注意してください。

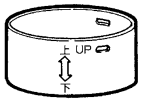


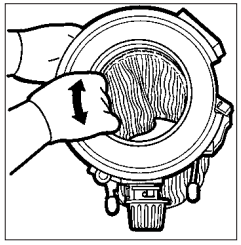
7. しん調節器内側のみぞの穴と、しんホルダーの穴を合わせてください。



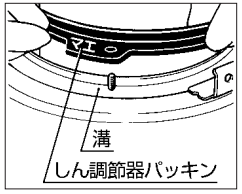
8. 新しいしんを軽く四つ折りにして、しんホルダーの穴と、しん調節器のみぞの穴にしんのガイドピンを３箇所を差し込んでください。
しんホルダーを変形させないように注意してください。

お願い
この時しんホルダーの上下を間違えないでください。

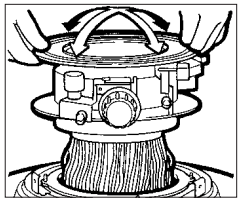




9. しんをしん調節器の内側に指で押しつけながら充分になつかせてください。
充分になつかせないと、対震自動消火装置が作動した時に、しんが下がらないことがあります。



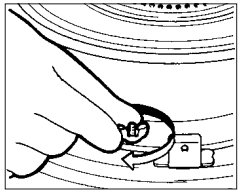
10. しん調節器パッキンが正しくセットされているか確認してください。
パッキンの表示（マエ）位置を合わせて取りつけてください。

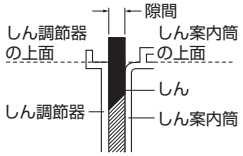


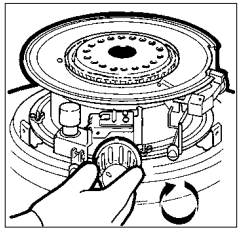
11. しんの下部を広げて、油タンクとしん調節器にしんをなつかせるために、前後左右に動かしながらしん調節器をはめ込んでください。

お願い
しんのほつれや、糸が油タンク外に出ないように注意してください。

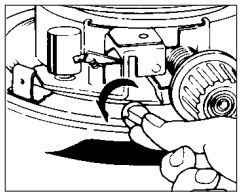
12. しん案内筒としん調節器の隙間が全周揃っている所で、しん調節器の蝶ナット４本で均等に締めてください。
１箇所のみ締め付けるのではなく、均等に徐々に締めてください。
しん調節器の上面としん案内筒の上面（燃焼筒ののる面）の高さが揃っていることを確認してください。（揃いが悪いと炎が片燃えします。）

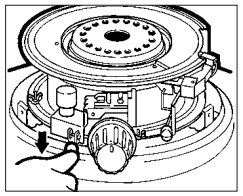


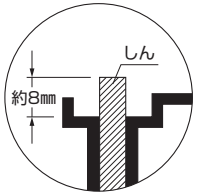




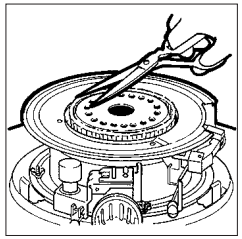
13. しん調節つまみを右（↻）に止まるまで回して、しんを上げてください。
対震自動消火装置を作動させ、しんがスムーズに確実に下がることを２～３回確認してください。
しんの上下がスムーズでない場合は、しんのなつかせかたが悪いためです。もう一度９項からやりなおしてください。


[KSA-120A]


[KSA-120B,KS-62B系
KS-67系]

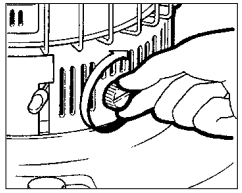


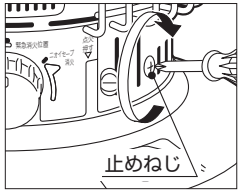
14. しんを最大に上げた時、しんの高さは標準（**でるでるつまみ**の①の穴に固定ピンの凸部を入れてください。）で約８㎜です。しんが約８㎜の高さに均一に揃っていることを確認してください。



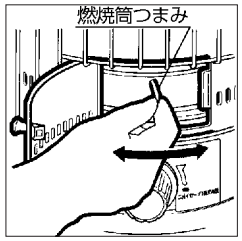
しん上端の糸のほつれ等は、はさみで取り除いてきれいに整理してください。
裏表紙の横の**しん高さ確認ゲージ**を使用して、しんの高さを確認してください。

15. 本体をかぶせ、燃焼筒を正しくしん調節器の上にのせて、体止めねじまたは止めねじ３本で固定してください。


〈体止めねじの場合〉



〈止めねじの場合〉



16. 燃焼筒つまみを軽く左右に２～３回動かし、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、しんの上にのっていないかを必ず確かめてください。

17. 乾電池を、電池ケースに⊕⊖を正しく合わせて入れてください。
乾電池の入れ方が⊕⊖逆ですと、点火できなかったり、点火しにくくなります。

18. 油タンクに給油してから、20分以上待って、しんに灯油が充分に吸い上げられてから点火操作をして、各部がスムーズに動き、正常に燃焼することを確認してください。